

Ⅲ 実施に向けて

(1) 街なか空間活用における質の確保について

① 「質」の重要性について

◎ 前回専門部会での議論において

- ・デザインの重要性がこんなにも大事だということが分かった。
- ・椅子とテーブルでもデザインによって受け入れられ方が全然違う。
- ・緑の配置が絶妙。目線が合わなくて居心地がよいパーソナルスペースになる配置だった。
- ・60席という大規模に行ったのがよかった
⇒「質」を確保することが重要との意見が出た。

◎ 人々が居心地良く過ごすための、座り場の「質」について

例えば…

- ▶車などから安全であり、不快な環境（風・雨・気温等）から守られている。
- ▶座っていて快適な空間であり、様々な活動（座る、見る、話す、聞く）ができる。
- ▶良質なデザイン、素材であったり、素晴らしい眺めがあるなど、良好な体験ができる。
など

参考：12の質的基準「人間の街 公共空間のデザイン」ヤングール著 鹿島出版会より

保護	交通と事故からの保護 —安全 ・歩行者の保護 ・交通不安の除去	犯罪と暴力からの保護 —治安 ・活気ある公共領域 ・街路に注がれる眼差し ・昼夜を通じて展開する機能 ・適切な照明	不快な感覚体験からの保護 ・風 ・雨/雪 ・寒さ/暑さ ・汚染 ・埃、騒音、照り返し
	歩く機会 ・歩くためのスペース ・障害物の除去 ・良好な路面 ・万人への開放 ・興味深いファサード	たたずみ/滞留する機会 ・エッジ効果/ たたずみ/滞留する ための魅力的な ゾーン ・たたずむための抛り所	座る機会 ・着座のための ゾーン ・利点の活用：眺望、日照、人 びとの存在 ・座るのに適した場所 ・休憩のためのベンチ
	眺める機会 ・適度な観察距離 ・遮断されない視線 ・興味深い眺め ・照明（夜間）	会話の機会 ・低い騒音レベル ・「会話景観」を つくりだす ストリートファニチュア	遊びと運動の機会 ・創造性、身体活動、 運動、遊びの促進 ・昼も夜も ・夏も冬も
快適性	眺める機会 ・適度な観察距離 ・遮断されない視線 ・興味深い眺め ・照明（夜間）	会話の機会 ・低い騒音レベル ・「会話景観」を つくりだす ストリートファニチュア	遊びと運動の機会 ・創造性、身体活動、 運動、遊びの促進 ・昼も夜も ・夏も冬も
	スケール ・人間的スケール で設計された建 物と空間	良好な気候を楽しむ機会 ・日向/日陰 ・暖かさ/涼しさ ・そよ風	良好な感覚体験 ・良質なデザインと ディテール ・良質な素材 ・すばらしい眺め ・樹木、植物、水
喜び	スケール ・人間的スケール で設計された建 物と空間	良好な気候を楽しむ機会 ・日向/日陰 ・暖かさ/涼しさ ・そよ風	良好な感覚体験 ・良質なデザインと ディテール ・良質な素材 ・すばらしい眺め ・樹木、植物、水

② 「質」を確保・維持する仕組みについて

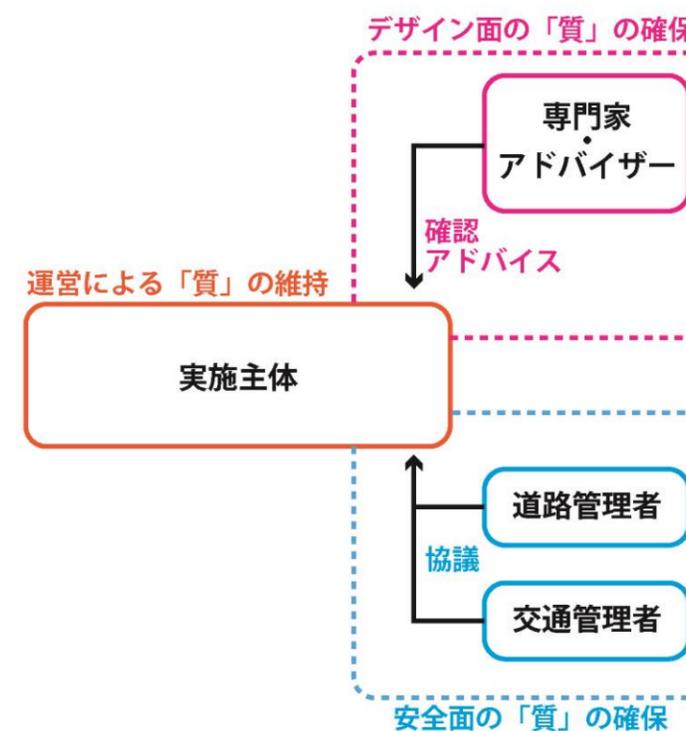
◎ 前回専門部会での議論において

- ・毎日の出し入れをどのように継続的にするかが重要。
お店にとってもそういう座る場所があることに価値があると分かれば繋がっていく。
- ・毎日の出し入れを考慮した上で安全性と携帯性が重要。
専門家の知恵をお借りするなど、今回の実験をみて、持続的な取組みにしたいと思う。
- ・可能な形で出来ることから持続していくということが重要である。この部会で作ればよい。
⇒「質」を確保・維持する仕組みづくりが同様に重要との意見がでた。

◎ 「質」を確保・維持する仕組み

- ・「質」として、いかに環境を整えるかという点で、安全面とデザイン面に分けられる。
- ・デザイン面の「質」としては、専門家・アドバイザーによる、アドバイスが考えられる。
- ・安全面の「質」としては、道路管理者や交通管理者と協議し、確保することが必要である。
- ・「質」の維持としては、実施主体が行う運営・管理体制のつくり方が重要である。

▶ 「質」を確保・維持する仕組み(例)



③「質」を規定するポイント

存在を認知されやすく
魅力的である

POPULAR

P-1：一定のまとまった空間をつくる



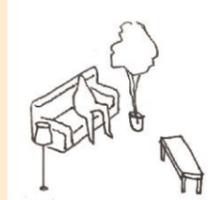
- ◎一定のまとまった空間をつくることで、存在感を担保すると共に、周辺の雰囲気を変える。
- ◎視認性を高くし、多くの人が集まるきっかけとする。

具体例：約100㎡のまとまり。約60の可動椅子と約15の机と植栽を配置。

利用者の声

このフリースペースがあることを知っていたので、お昼を食べにきた。こうした場所があると、ここを目的地にお昼を持っていこうかな、と思える。(30代・10代女性)

P-2：リビングを思わせる設えをする



- ◎ファニチュア類を木材等の暖かみのある素材とする。
- ◎ソファや棚、フロアライトなど、公共空間で通常設置しない装置を置き、空間を変える。

具体例：木製の可動椅子と可動机を用いる。リビング用のフロアライトと木製棚を用いる。

利用者の声

「座れるところ」と、こうした「休めるところ」は違うと思う。(40代女性・2人利用) 木製の本棚、机、イスに囲まれて本を読んでいたら、心が落ち着きました。(20代女性 単独)

P-3：人を呼ぶコンテンツを仕掛ける



- ◎街なかで過ごすきっかけとなるコンテンツ (Wi-Fi や絵本、芝生等) を入れ込む。
- ◎活用空間内でも周辺店舗との協力でもどちらでも可。

具体例：交換型書店・絵本・芝生。「Ehime Free Wi-Fi」の利用・案内をすすめる。

利用者の声

Wi-Fiが無料で使用できてよい、外国人も喜ぶのでは？(10代・30代) テイクアウトのカフェブースが併設されるともっと利用者が増えると思う。(40代女性 家族3人で利用)

利用しやすい仕掛けがある

FRIENDLY

F-1：外部からの入りやすさを高める



- ◎物理的な利用しやすさとして、活用空間内部に入り座ることが容易である空間とする。
- ◎一定のまとまりの中で、利用動線を考えて施設配置をする。

具体例：利用動線部・入口は、1.7mあける。

利用者の声

疲れた時に気軽に座れるイスがあるのが嬉しい。(10代女性 恋人と2人) 初めて利用したが、雰囲気がよくて入りやすい。歩き疲れた時にちょうど良い。(80代男性 単独利用)

F-2：自由に使える場だと分かりやすく伝える



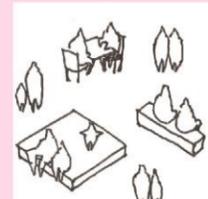
- ◎オープンカフェと異なり、自由に使える空間であることが一目で分かる仕掛けをする。
- ◎利用動線を踏まえ、サインや看板やポスター等の位置を決める。

具体例：カフェ看板を入口部・通行空間との境界に設置。一つのまとまりにつき4個設置する。

利用者の声

待ち合わせ中、行くところがなく困っていたがこのスペースを見つけて助かった。(50代女性 単独利用) 昼食をとる場所がなくて困っていたので助かった。(10代女性 友人と2人)

F-3：多様な空間をつくる



- ◎ファニチュア類の種類や密度、配置などを工夫し、多様性のある空間とする。
- ◎様々な利用者が目的に合わせ、好きな場所を選べるようにする。

具体例：可動椅子・可動ベンチ・可動縁台など、多くの種類のファニチュアを用いる。

利用者の声

真ん中には若い人たちが座ると思うので、年寄りには外側に座れば良い、と思った。商店街が楽しくなるならどんなことをしてもらっても良い。(70代女性・単独利用)

居続けたい心地よさがある

RELAXING

R-1：密度と間隔を両立させる



- ◎密度を高め、囲われ感を演出する。一方で空間内の移動や人目等のために間隔も同時に確保する。
- ◎設置場所や活用内容によって、密度と間隔のバランスを検討する。

具体例：密度と間隔の両立として、机と机の間隔は2m内外とし、その間にバツファを入れる。

利用者の声

席が密集しているから座りやすい。ベンチだと、周りに何もなくて目立ってしまうので座り辛い。飲食店の前にあったから座りやすかった。(20代女性・2人利用)

R-2：居心地の良さをつくるバツファを入れる



- ◎3つの役割を果たす装置を入れる。①通行空間と分離し、内部と外部を柔らかく分ける、②利用者間の視線の交錯を遮る、③人の投げり所となり、背後や側面を守る。

具体例：長さ1.2m・全体高さ1m程度の可動プランターをバツファとして用いる。

利用者の声

(前回と比べて) 植物が減り、人目が気になったので、植物を増やすか、代わりのものでうまく仕切ってほしい。

R-3：人の手入れを感じる空間をつくる



- ◎手入れされていると感じる、質が高く清潔な空間とする。
- ◎可動家具・植栽によって、出し入れなどの手入れを感じさせ、加えて管理する人間の存在を匂わす。

具体例：質の高い木製可動式ファニチュアとし、こまめに掃除するなど、清潔に保つ。

利用者の声

歩いていて気になり、友人とおしゃべりしようと思って利用した。清潔に保たれているので、利用者のマナーで保たれるようゴミ箱は置かない方がいいと思う。(70代女性・2人利用)

参考事例

P-1：一定のまとまった空間をつくる



具体例：芝生の上に座り場をつくり、まとまった空間を演出

P-2：リビングを思わせる設えをする



Leefstraten

具体例：ダイニングテーブルやソファなどリビングを思わせる仕掛けをする。

P-3：人を呼ぶコンテンツを仕掛ける



具体例：絵本を置くことで、子供たちを呼ぶコンテンツとする。

F-1：外部からの入りやすさを高める



具体例：利用動線部・入口は、1.7mあける。

F-2：自由に使える場だと分かりやすく伝える



具体例：要所に大きな立て看板をおいて、分かりやすく伝える。

F-3：多様な空間をつくる



具体例：可動椅子・可動ベンチ・可動縁台など、多くの種類のファニチャーを用いて、好きな場所に座る。

R-1：密度と間隔を両立させる



具体例：密度と間隔を両立させ、賑わいのまとまりを作る。

R-2：居心地の良さをつくるバッファを入れる



具体例：柵や植栽が身を守るバッファとして用いられている。

R-3：人の手入れを感じる空間をつくる



具体例：質の高い木製可動家具を用い、清潔感を維持する。